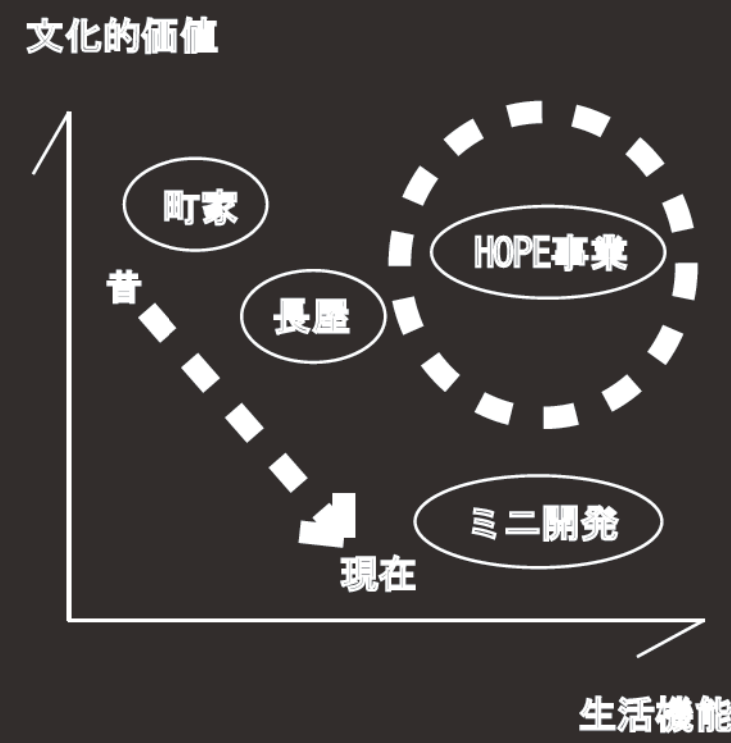


平野らしさ

平野の重点地区

平野には様々な時代の建物が戦火を免れ現在も残っている。また、近年ではミニ開発などがおこなわれ、若い人も増えつつある。平野らしさとは、このような様々な時代の建物があり、様々な年代の人が生活している風景であると言えます。

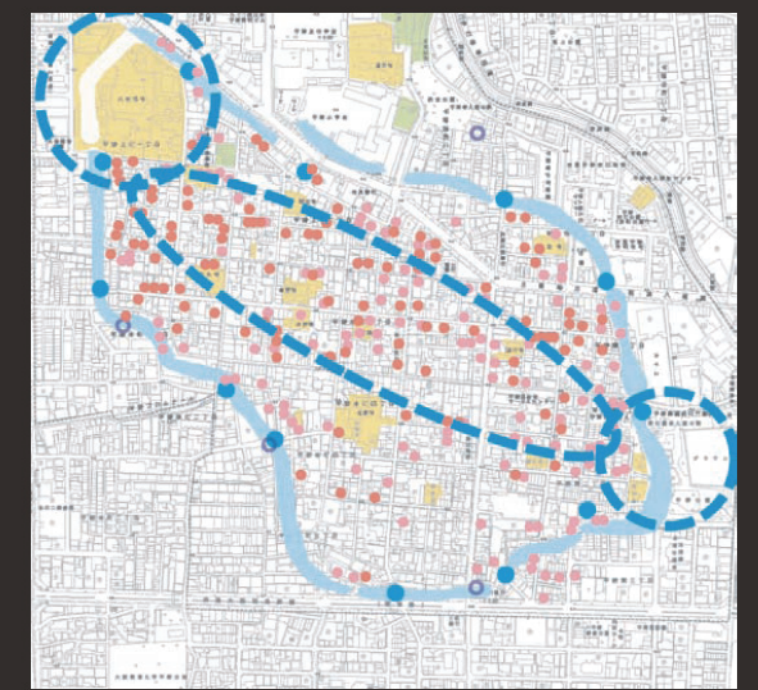
景観資源のストックとしての町家は文化的価値が高い生活機能が低い特性をもっている。ミニ開発は生活機能性を高い反面、文化的価値は下がっていることがわかる。しかし、近年展開しているHOPE事業によって修景された町家は、文化的価値を保ったまま生活機能も持ち合わせている。そのような意味ではHOPE事業は評価できる。



このHOPE事業と現在残っている町家や長屋の分布は、だんじり祭のメイン通りとなっている通りに偏っている。この通りは平野らしさの軸として機能している。



もう1つの軸として、史跡と町家・長屋が集っている大念佛寺と平野公園を結ぶ軸がある。これら2つの軸を中心に平野らしさを広げるまちづくりを推進することを提案する。



計画イメージ

01. 現状の景観資源

資源につながりが少なく、単体として歴史的価値のあるものは少ない。



02. 線的なまとまり

単体要素ではなく、様々な複数の要素からなる景観の線的なまとまりが生まれてくる。周囲に浸透してゆく。



03. まちへの浸透

線的なまとまりが拡大し、浸透し合うことで、まちとしての景観ができてゆく。

